



## シリーズ「同和問題」〜「同和問題」解決に向けて

### 『同和問題』の解決を阻むものはじめ

はじめに

我が国固有の人権問題である同和問題は、これまでの長年の取組によって、生活環境や産業基盤の整備などの面ではかなり成果があがっておりますが、結婚問題を中心に差別意識は根深く存在し、差別意識や偏見の解消が課題として残されています。また、インターネット等を利用した悪質な差別的情報の流布などの問題も発生しています。どうして同和問題は、いつまでも解決されずにいるのでしょうか。

#### ①「同和問題の解決を阻むもの」

##### (1)「寝た子を起すな」

「同和行政や同和教育を続けていると、かえって部落差別の存在を意識させてしまっている」といわれるかという考え方は、この考え方は、古くからある意見で、「寝た子を起すな論」と呼ばれています。

##### ◆「寝た子を起すな論」の問題点◆

##### ①歴史的事実を反しています。

近世の賤民身分制度は、明治4年のいわゆる解放令によって終止符が打たれましたが、それによって直ちに差別が解消されたわけではありません。

明治政府は、同和行政も同和教育も行わ

ず、まさに「寝た子を起すな」式でこの問題は放置されてきましたが、同和問題が解決されるどころか、差別の実態は厳しさを増したといわれています。

##### ②知識や情報は、学校教育や啓発によってのみ得られるものではありません。

何の知識も持たない人が、誤った知識を持つ人の話を聞いたり、インターネット上の差別的書き込みを読んでしまうとそれをしてしまつてもいいかもしれません。そういった間違つた認識を持つ人がいなくならない限り被差別部落の人に対する差別意識はなくなり、同和問題は解消されないのです。

##### ③差別に対する抗議や部落解放の取組を否定することになります。

「寝た子を起すな論」は、「差別に対する抗議や解放を求めて訴えるなどの行為は、同和問題を知らない人にまでその存在を知らせることになってしまつたので、取り組むな」ということになります。さらに、「部落の人が差別に対して抗議することや差別解消の取組をすることを否定するばかりでなく、差別を受けても黙って耐え忍べという考え方」につながりかねません。

##### (2)忌避意識

同和問題は、「やっかいだ」「難しい」「自分

とは関係ない」「関わらないほうがいい」として避ける傾向にあります。このことは、正しい知識が得られていないために、差別意識を伝え、差別を容認してしまうことになりません。

##### (3)ステレオタイプ・偏見

固定観念により特定の人たちに対して一面的に決めつけたイメージを持つことをステレオタイプといいます。マイナスイメージのステレオタイプが偏見や差別を引き起こしてしまつたのです。そのほか、根拠のない不合理な迷信や風習、「世間ではそうしているから」という「世間体」という概念も差別意識を支えていると言えるでしょう。私たちは、一日も早くこれら誤った認識や固定観念を払拭し、同和問題の解決に向かわねばなりません。

(大分県生活環境部人権・同和対策課 大分県教育庁人権・同和教育課

『同和問題』より一部抜粋)

(文責：武蔵分室 山下)

#### ●第10回国東市隣保館まつり

「まじりの川柳」

課題《まつり》応募作品

町中は心一つに夏祭り

稚さの残る少年神輿担ぐ

安岐町 門田 風二

武蔵町 西村 敦子

## 市長日記

### 『暮らしのなかの七島蘭』展 Part.1

国東市長 三河 明史

No.75

7月8日(土)、国東市歴史体験学習館(弥生のムラ)で、国内ではほぼ国東市だけに残る七島蘭産業についての企画展の開会式を行いました。題して、「暮らしのなかの七島蘭」展。期間は、12月10日(日)までの開催です。

8日、午前10時からの開会式には、多くのお客様が詰めかけましたが、大部分は、私と同年代の60歳以上の皆さん。それぞれこの七島蘭には、強い思い出があるのでしよう。

企画展のチラシには農家の若い娘さんが、屋外で「むしろ機」に向かって七島を打っている懐かしい写真が写っています。大正15年の写真ということで、「むしろ機」もかなり古い型のようなのです。

私が、母がむしろを打っているのを見たのは、おそらく昭和30年前後より後の時代ですから、母の使っていたむしろ機はこの写真よりもう少し改良された新しい型で、

しかも途中から足ふみ式からモーター式に変わりました。

展示室に展示している資料には、むしろ機や分割機など初期のものから徐々に改良されたもので、改良の歴史が一目で分かるよう展示をしています。貴重な資料です。

また、市民の方が県立歴史博物館に寄贈したものを、「くにさき七島蘭振興会」が業者に依頼し復元したという大正15年当時の映像があり、これには国東町来浦(当時は来浦町)で開催されたむしろ打ち競技会の様子が写映されています。むしろ機の前で忙しそうに懸命に打っている人や応援している人、沢山の人が詰めかけて技術を競っている様子は、実に生き生きとしており、活気に溢れています。まるで渋谷の駅前で競技会を開いているかのようです。

昔の農村は、こんなにも活気があったんだなあと思う感じがしました。

## 2017 空の日 in 大分

9月2日(土) 【事前申込型のイベント( )内は定員・無料】

- ①場内バス見学(240人)
- ②折紙飛行機教室(10組20名程度)

当日のイベント等 子供制服撮影会、機用品販売、その他イベント等を開催 ※都合によりイベントの内容変更や中止がある場合がございます。予めご了承ください。

参加希望の方は、往復はがきに必要な事項(希望イベント・グループ全員の住所・氏名・年齢・電話番号)を記入してお申し込みください。応募者多数の場合は抽選。はがき1枚につき1イベント4名まで  
対象者 ①小学生以下(保護者同伴可) ②6歳未満保護者同伴

応募先 〒873-0421 国東市武蔵町系原大海田 大分空港事務所「空の日」係  
問合せ先 ☎0978-67-3771 (電話受付時間：平日午前9時～午後5時)

※無料駐車場には台数制限がありますので、満車時は一般駐車場をご利用いただく場合がございます。ご来場の際には、公共交通機関のご利用をお勧めいたします。

